

令和6年度第1回青梅市文化財保護審議会会議録

日 時

令和6年7月23日（火） 午後2時00分～午後4時20分

会 場

青梅市役所3階教育委員会会議室

出席者

（委 員）

馬場会長、山本副会長、沖川委員、保坂委員、久保田委員、
西村委員、三戸委員、守田委員、須崎委員

（事務局）

橋本教育長、森田部長、北村課長、高野主任、阿部主任

欠席者

（委 員）

高久委員

開会（事務局）

1 教育長あいさつ

2 正副会長の選任および部会長・部員の指名

以下のとおり選任および指名した。

会長 馬場委員

副会長 山本委員

第1部会 山本委員（部会長）、沖川委員、保坂委員、守田委員

第2部会 馬場委員（部会長）、西村委員、高久委員

第3部会 久保田委員（部会長）、三戸委員、須崎委員

2 諮問事項

教育長から会長に、報恩寺木造二童子立像の市指定有形文化財の追加
指定についての諮問書を提出した。

3 報告事項

(1) 令和5年度事業報告について

事務局から、令和5年度における郷土博物館、文化財管理、文化財調査保護、埋蔵文化財調査保護、指定文化財保存修理補助および吉川英治記念館の各種事業について説明。

質疑・応答・意見

特になし。

(2) 令和6年度事業計画について

事務局から、令和6年度における事業計画について、主な事業のみ説明。

質疑・応答・意見

【委員】夏季展示「吉川英治と市所蔵の文豪たち～青梅市吉川英治記念館×文豪とアルケミスト PARTIV～」チラシの案内図が正確でない。

【事務局】指定管理者と協議し、改善する。

【委員】吉川英治記念館では、意欲的に展示事業やスポットイベントなどが取り組まれているが、入館者数の推移はどうか。

【事務局】指定管理者による運営の前と後では、開館日数が違うため正確な比較はできないが、市になってからの入館者数は6000から7000人台で推移している。全体的には伸びていない状況にあるが、新たな来館者層が増えている。

【委員】都指定有形文化財旧吉野家住宅の修理事業については、令和6年度から7年度にかけて行うことで、一応終了するのか。

【事務局】今回の修理事業は、文化財保存活用計画に基づき進めているもので、これ以外にも、トイレの整備、味噌蔵の復元と整備、長屋門および塀の復元検討、駐車場の整備等が課題として残っているため、東京都と相談しながら引き続き取り組んでいく。

(3) 指定文化財の現状変更等について

事務局から、都指定史跡勝沼城跡、市指定天然記念物御嶽神社参道

の杉並木および市指定史跡武蔵御嶽神社の現状変更等について説明。

質疑・応答・意見

【委員】ナラ枯れの伐採時期によっては、伐った後でまた伐らなければならないので、費用を効率的に使うためにも、伐り残しのないようにしてほしい。

御岳ビジターセンターに伐採した杉の年輪を調べている職員がいるので、声をかけてほしい。

【事務局】承知した。

(4) その他

質疑・応答・意見

【事務局】令和6年6月定例議会において、旧吉野家住宅の保存・有効活用に関する一般質問があり、令和5年度に実施した整備事業や地元団体との意見交換会の内容のほか、東側駐車場用地に大型バスの駐車場や見学施設等を整備できないかといった質問をいただいた。教育長からは、見学施設等の整備について、地域文化の拠点になるような施設整備も含め検討していきたいといった趣旨の答弁を行った。

5 協議事項

(1) 青梅市指定有形文化財の指定について

事務局から、「木造二童子立像（報恩寺所蔵）」の青梅市指定有形文化財の追加指定について概要を説明。その後、提起者から詳細な説明があった。

質疑・応答・意見

【委員】二童子立像と木造地藏菩薩坐像は作風が似ているのか。

【委員】作風的にも相通ずるものがある。特に掌善童子については、地藏と同じ慈悲相であることもあって顔立ちがよく似ていることがわかる。また耳の形が非常に似ている。

【委員】この二童子立像は、鎌倉時代の彫刻や南北朝時代の彫刻によく学んだ見事な作風を示している。弘円は室町時代の顕彰すべき代表的な仏師といってもよい。

【委員】青梅市指定文化財提起書で、「最初の仕事は御岳御本地」とあるが、この当時このような動きがあったのか。

【委員】永正8年から9年にかけては青梅にやってきたようで、市内の塩船観音寺本堂にある木造毘沙門天立像の像内に、あたかも青梅における自分自身の活動を記したような銘文があり、これと現存している他の遺品の銘記によって、青梅での仕事の動向が明らかになる。

【委員】木造地藏菩薩坐像の像内体部に、墨書と陰刻があるのか。

【委員】この墨書と陰刻による銘文により、永正9年閏4月6日、同5月2日開眼という日付けがわかり、仏師弘円が製作したこと、造像には三田氏宗、政定、顕昌が関わったことが知られる。また、像内後頭部の墨書は、今回の調査で初めて写真撮影されたもので、「五月二日開眼」の文字が確認でき、完成の日付けがわかるのは貴重である。

【委員】像内納入の和歌短冊について、一部が小さく分離しているので、修復が必要とのことだが、墨書は和紙に書かれているのか。

【委員】和紙の表と裏に書かれている。

【委員】この製作年は同時代のものか。

【委員】同時代のものである。

【委員】非常に貴重な文字資料なので、ぜひ修復してほしい。

【委員】今回の報恩寺木像二童子立像の青梅市指定有形文化財の指定については、次回の審議会までに答申案を作成し、審議会で答申協議することとしたい。

答申案の作成に向けて、事務局の方で提起者と調整しながら進めてほしい。

【事務局】承知した。

(2) 指定文化財の指定候補等について

事務局から、下山八幡神社の鳩や飯綱権現騎馬像などの文化財の進ちょく状況について説明。

質疑・応答・意見

- 【委員】下山八幡神社の鳩の脚についての３Ｄ画像の撮影を検討とあるが、３Ｄ画像の撮影とはどういったものか。
- 【委員】台座の面に彫られた鳩の脚の一部に、朱が残っているところもあり、３Ｄ画像の撮影技術を活用することで、脚を補った場合の形が想定できる可能性があると考えた。
- 【委員】外注するとなると、莫大な予算がかかるのでやめた方がよい。このくらいの小さな立像であれば、安くて手軽にできる提案も多少は知っている。
- 【委員】立体画像が得られれば、鳥の専門家にも相談をして、どのくらいの長さで、どのくらいの太さの足があったらよいのか検討することがきる。
- 【委員】近年の動向として、多摩地域の各自治体史の中で、今非常に注目されているのが行政文書である。行政資料を今後どのようにきちんと整理・公開していくのか、青梅市の文化財としての行政文書も、指定文化財の対象として考えていけたらよいと思う。

(3) その他

質疑・応答・意見

- 【事務局】事務局から、市指定史跡武蔵御嶽神社の石段修理の現状変更等について補足説明。
- 【委員】杉の木近くの石段は白御影石に交換して階段を修理し、青銅鳥居近くの石段は昔の景観を残す形で古い石を使って修理する。
- 【委員】図書館と郷土博物館の連携という意味で、博物館で収蔵している古い文献の副本を製作して、図書館で閲覧できるようなシステム作りができればよいと思う。
- 【事務局】今後、相談していきたい。
- 【事務局】都指定史跡「成木熊野神社境域」の倒木について説明。

6 次回の開催について

- 【事務局】１０月から１１月ごろを予定している。

7 その他

質疑・応答・意見

【委員】雲慶院の焼損資料について、奈良文化財研究所と文化財防災センターで修復作業を行っている。現在、保存処理としてカビ除去を行っている。今のところ仏具と扁額に関しては、作業が終わりつつあり、写真については修理が終了したので、雲慶院に戻そうと考えている。

閉会（事務局）